

西洋美術史ゼミ 第五回補足資料

語釈

- 廟堂

前回の補足です。廟堂とは政治をつかさどる所という意味と、祖先の霊を祭る所という意味があり、前回のスライドでは後者を指します。

- 聖像論争（イコノクラスム）

キリスト教では偶像崇拝が禁止されており、聖書において偶像に跪くものは異端とされました。しかし当時の民衆には、宗教美術は魔術的な力を持つと素朴に信じる者が多く、聖像が氾濫していました。そのため、キリスト教原理主義者はイコン等の聖像を否定し、破壊することとなったのです。しかし聖像の擁護者は描かれたイメージ（イコン）と実体（神）は本質的に異なると主張し反駁しました。その結果、最終的にイコン擁護派が勝利し、今日まで続くキリスト教美術の伝統が守られることとなりました。

- 十字軍

十字軍とは、中世に西欧尾カトリック諸国が聖地エルサレムをイスラム教諸国から奪還することを目的とした遠征軍である。1096年から1270年にわたり7回行われたが、最終的に聖地回復に失敗した。この結果響応の権威が揺らぎ、他方で国王の権威は高まった。

- オスマン朝

13世紀末に建国されたトルコ系のイスラーム王朝。ビザンツ帝国を滅ぼすとこの地に遷都し、イスタンブールと改称した。以後西欧諸国を圧倒するようになる。

発表の補足

- キリスト教の正統派、異端派について

キリスト教は313年のミラノ勅令によってローマ帝国に公認されました。その当時は三位一体説を唱えるアタナシウス派と、イエスを人間として扱うアリウス派がありましたが、325年のニケーア公会議でアタナシウス派が正統派となり、アリウス派が異端となりました。ローマ＝カトリック教会の「カトリック」とは「普遍の」という意味ですが、これは教会がアタナシウス派であることに由来します。

参考文献

Byzantine art, Wikipedia, 2022年3月9日, https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine_art

秋山聰・田中正之, 「西洋美術史 美術出版ライブラリー 歴史編」, 美術出版社, 2021

ジョン・ラウデン, 「初期キリスト教美術・ビザンティン美術 (岩波 世界の美術)」, 岩波書店、2000